



養護・訓練指導事典

編集 大川原 潔・他

わが国における心身障害児の教育も、すでに100年のあゆみを続けて来た。この間、医学、心理学、教育I学等関連諸科学の歩みに支えられながら、そして人間尊重の精神に基づいて一人一人の障害児が生きがいのある社会生活が出来るようにという願いが、この教育を確実に発展させて来た。

養護・訓練は「児童又は生徒の心身の障害の状態を改善し又は克服するために必要な知識・技能・態度および習慣を養い、もって心身の調和的発達をの基盤をつちかう」ことを目標に、今回の特殊教育諸学校の教育課程改正に当って誕生したものである。

「養護・訓練」の内容構成をみると、人間行動の基礎となる心身機能の習得や改善に必要な事項がひとりひとりの障害児の状態に即して総合的に取扱われる様に考慮されている。

〈内容〉

第1部 養護・訓練の基礎理論

1. 障害児の教育と養護・訓練
2. 人間行動の機構と発達のプロセス
3. 障害児の総合的理解
4. 養護・訓練の指導と学習理論
5. 障害児の教育課程と養護・訓練
6. 養護・訓練の条件整備

第2部 養護・訓練の指導内容と方法

1. 健康の維持改善能力の向上
2. 心理的適応能力の向上
3. 情報の収集と処理能力の向上
4. 身体的支持と移動
5. 作業能力の向上
6. 意思の伝達能力の向上

第3部 養護・訓練の指導の展開(略)

(第一法規出版, B5版, 365ページ, 3,500円)
(東京教育大学雑司が谷分校リハビリテーション科

西村和紘)

Handling the young cerebral palsied child at home

by Nancie R. Finnie, F.C.S.P.

本書は邦訳「脳性まひ児の家庭療育」の原著第2版である。第1版は世界各国で絶大な賞賛を浴び、著者のMrs. Barnes (Miss Finnie) は英国王立理学療法士協会より Fellowship を受けている。彼女は現在 London 南西部にある Child Development Centre で副所長として活躍しているが、この業績の基礎となっているのは、いうまでもなく、Bobath 夫妻による「神経発達学的治療アプローチ」である。

われわれは乳幼児脳性まひ児を持つ両親に対する指導の重要性から、第1版の邦訳書を教科書として用いてきたが、第1版、第2版共に療育における両親のかかわり、取り組み方を重視してあることが最大の特徴であろう。つまり両親が発達、脳、運動等の仕組みを理解することからはじまり、子供の発達に対して積極的な責任を持つという認識にいたるまでの過程を援助するのが本書の目的であろう。又1975年夏に彼女の元で2週間研修した際にもそれを強く感じた。

さて第2版は量的にも質的にも第1版を大きく上まわるもので、新たに Dr. Jack Bavin (精神科医), Miss Helen A. Mueller (言語治療士), Mrs. Mary Gardner (心理学者) の寄稿を得、非常に包括的な内容となっている。全体は第1版の11章から17章とふえている。またスケッチも第1版に比べて倍以上ふえて、よりわかりやすくなっている。

ただかなり厚い本となったので両親が十分有効に利用する為には療法士の適切な指導がさらに必要となってくる。巻末の器具等の購入方法一覧表はわれわれが今後独自のものを作らねばならないという課題を提供してくれている。脳性まひ児を持つ両親はもとより、脳性まひ児の療育にたずさわるすべての関係者に本書をすすめる。(医歯薬出版株式会社より1976年早々に本書の翻訳書が出版の予定である)

(William Heinemann Medical Books Ltd. 1974)
(聖母整肢園理学療法士 今川忠男)